

睡蓮

S U I R E N

愛知大学
教育研究支援財団
広報誌

05

2018 / 4



巻頭特集 [知の対話]

「食」にまつわる歴史や文化、生産力も豊かな東海エリア
そのポテンシャルを活かせば、未来の日本のモデルとなる

株式会社 Mizkan Holdings
執行役員 中央研究所長
博士(農学)

岸 幹也

日本健康創造研究会 会長
米国ウイスコンシン医科大学 教授
統合医療 クリニック 徳 院長

高橋 徳

農業生産法人
有限会社 鍋八農産
代表取締役

八木 輝治

Professional Eye

自然と共生してきた漁と食の文化
継承する意味と面白さがわかってきた

鵜匠

稲山 琴美

[知の対話]

「食」にまつわる歴史や文化
生産力も豊かな東海エリア
そのポテンシャルを活かせば
未来の日本のモデルとなる

p.03

[Professional Eye]

自然と共生してきた漁と食の文化
継承する意味と面白さがわかってきた

鵜匠 稲山 琴美

p.08

[GLOBAL]

語学力向上、異文化理解のためのオープンな場
愛知大学グローバルラウンジ

愛知大学 国際コミュニケーション学部 学部長 塚本 倫久

p.12

[PROFESSORS LABO]

公認心理師をめざす
人材育成に力を注ぎたい

愛知大学 教授 鎌倉 利光

p.14

[愛大スピリット]

大学に入ってから才能が開花
念願のプロゴルファーめざし
苦しい練習も明るくこなす
夢は、国際舞台へと広がる

愛知大学 経営学部4年 芦沢 衣里さん

p.15

2017年度の主な事業実績

裏表紙

「睡蓮」について (題字「睡蓮」平松 礼二氏 筆)

愛知大学の教育思想は、国際社会や地域社会のリーダーとなり、世界をダイナミックに動かす人材を育てること。睡蓮の花言葉には、そのような人材に必要な「清純な心」「純粋」「優しさ」「信頼」の意味が含まれており、彼らの未来を支える愛知大学教育研究支援財団の情報発信誌を「睡蓮」と名付けました。

表紙のご紹介

平松 礼二氏 作
「モネの池夢の季」
(2008年)

モネが浮世絵に恋をし、
モネの絵画が生まれ、私
はモネに恋をし、モネの
ジャポニズムという世界を
料理した。睡蓮の池に流
れる花筏が優しい。



ごあいさつ

愛知大学は、戦前まで中国・上海にあった東亜同文書院大学な
どを継承し1946年に創設。現在、創立72周年を迎えています。

前身である東亜同文書院大学の「国際人の育成」という目
的を受け継ぎ、「国際的教養と視野を持った人材の育成」「世
界文化と平和への貢献」「地域社会への貢献」を建学の精神と
して、現在も国際社会や地域社会で活躍する多くの人材を輩
出しております。

ロボットやIoT、AIによる百年に一度といわれる大きな時代
の変革の中で、大学を取り巻く環境は著しく変化し、その対応はま
ずす困難を極めています。

そんな情勢下、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」は
愛知大学の研究教育活動を側面から支援していくため、2012年
11月に設立されました。

学術研究、教育助成、奨学金支援、キャリア支援はもとより国際
セミナーなど公開講座を開催し、「積極的にチャレンジする国際感
覚を持ったグローバルな人材」、また、「地域社会で大いに活躍で
きる優秀な人材」の育成へのさまざまな支援を展開しております。

そうした本財団の趣旨にご理解とご賛同をいただき、日頃よ
りお力添えくださっている賛助会員様をはじめとする皆様に、
愛知大学および本財団の活動内容をご報告し、その成果を共
有いたしたく、「睡蓮第5号」を送らせていただきます。

公益財団法人
愛知大学教育研究支援財団
理事長

加藤 満憲



評議員・理事名簿(2018年3月現在)

評議員	地主 道夫	理事	加藤 満憲(理事長)
	近藤 薫		酒井 強次(常務理事)
	石川 健次		長谷川 信義
	西原 健二		古川 為之
	八木 好郎		那須 真理子
	堀田 久富		柘植 繁久
	松下 真由美		土井 義昭
	金田 学		平井 治彦
	竹本 智洋		唐 啓山
	佐々木 康司		山田 哲也
	砂山 幸雄		田本 健一
	渡津 英一郎		功刀 由紀子
	吉本 理沙		近藤 智彦
	監事	兵藤 文男	
		南 成	



巻頭特集

知の対話

株式会社Mizkan Holdings
執行役員 中央研究所長
博士(農学)

岸 幹也

日本健康創造研究会 会長
米国ウイスコンシン医科大学 教授
統合医療 クリニック徳 院長

高橋 徳

農業生産法人
有限会社鍋八農産
代表取締役

八木 輝治

「食」にまつわる歴史や文化、生産力も豊かな東海エリア。
そのポテンシャルを活かせば、未来の日本のモデルとなれる。

自動車産業をはじめ世界でも有数なメーカーが集中し、機械工業エリアと見なされることの多い東海地方。しかし、実は第一次産品や加工食品などの生産エリアとしても、全国的に高い位置を占めています。濃尾・伊勢の大穀倉地帯に加え、都市に近く東西の便にも優れた点を活かし、近郊型農業を多様に発展させてきた農業。また、味噌、醤油、酒、酢といった醸造業を中心に、歴史ある食品加工企業も多く、全国展開、世界展開もしています。一方で、食料自給率の低下や、長寿社会における健康、そして環境問題など、食に関わる課題も数多く存在します。今回は、今年度から、愛知大学地域政策学部に「食農環境コース」が誕生したのを機に、この地方の各分野で活躍されている皆様にお集まりいただき、「食」に関する現状と課題などを語っていただきました。

食と健康をめぐる それぞれの分野からの アプローチ

岸／お互い、初めてお会いする方ばかりですので、まず、自己紹介がてら現在の仕事について話したいと思うのですが、私は今、ミツカングループの中央研究所で所長を務めさせてもらっています。ご存じかと思いますが、当社は長年、お酢をつくってきた会社。最近では、それに加え、納豆など発酵食品を中心に広く消費者の皆様にご愛顧いただいております。ですから、その中央研究所も、「発酵」ということをテーマにしています。菌に



MIZKAN MUSEUM:ミツカンの酢づくりの歴史や、食文化の魅力にふれ、楽しみ学べる体験型博物館。2015年11月オープン。見学には、ホームページなどからの予約が必要。

よる発酵の過程を究明し、それをどう応用するか、また、新しい性質や機能を持った菌そのものの開発、さらに、それが人の体にどう働くのかという視点から

の健康機能の解明なども進めています。

高橋／私は今、名古屋でクリニックを営みながら、統合医療の研究と普及に努めています。統合医療というのは、これまでの西洋医学だけでなく、漢方、鍼灸、瞑想やヨガ、気功など主に東洋で発達した療法も組み合わせ、健康を追求しているという考え方です。もともとは大学病院の外科医として医師生活をスタートしたのですが、10年も続けるうちに外科的治療だけでは足りないと感じるようになりました。そのきっかけは、私自身、肩こりがひどく、紹介されて鍼治療を受けたら、それがピタリとやんだのです。それまで、どちらかといえば怪しげだとらえていた療法にそんな力があることに驚きました。それで東洋医学に興味を持ち、その秘密を解き明かしたいと思っていました。そんな課題を持ってアメリカに渡り、20年ほど、いくつかの大学で学究生活を送りました。その中で、そうした経験に基づく伝統医療にも十分に科学的根拠があることを確信し、4年ほど前に帰国。薬だけに頼らない医療の実践のため、まず郷里の岐阜で開業。2年前からは、名古屋にもクリニックを開いたというわけです。

八木／私の家は、父の代から伊勢湾に面した鍋田で農業を営んでいます。戦後、広大な干拓地が造成され、脱サラした父がそこに入植したのが始まりです。当初から、委託された土地で米づくりをしてきたのですが、平成10年に会社組織にし、後継者不足などで耕作がつづけられなくなった兼業農家さんなどからさらに農地受託し、現在は東京ドーム100個分くらいの土地で米作を中心とし

株式会社Mizkan Holdings 執行役員 中央研究所長
博士(農学)

岸 幹也

きし みきや:1971年、愛知県生まれ。1996年、中基酢店(現ミツカングループ)入社。以降、主にはミツカン中央研究所で、菌の研究・開発などに従事。途中、商品開発、品質保証の業務経験を経て、2014年より現職。



「知多の酢がつくった寿司文化
イノベーションの意欲が次代を開く」

た事業を展開しています。その過程で異業種と積極的にコラボし、特にトヨタさんと業務提携して、その生産方式を農業に応用することで生産性をアップ。それが評価され、農林水産祭天皇杯などの賞もいただきました。

地域差にも左右され、
意外にむずかしい
「おいしい」の基準

岸／近年、世界中で和食の評価が高まり、その代表である寿司の普及で酢の需要は増えています。世界で和食が評価されるのは、健康的な食事という点が大きい。そういう意味では、私たちの研究も、健康という点に大きなウエイトを置いています。一方で、食べ物は、なによりおいしくなければならぬ。菌の開発などにも、そこは外せない課題として重視しています。

高橋／ふつう、医師は患者さんに「三度三度バランスよく食べなさい」と指導するのですが、私は「好きな時に、おいしいと思うものを食べればいい」と言っています。それは、食べるという行為が、単に栄養補給という役割だけではないと思うからです。ものを食べておいしいと感じた時、人の体には、脳内ホルモン「オキシトシン」が大量に分泌されています。このオキシトシンは、別名「愛のホルモン」とも言われるように、人を幸せな気分にする情報伝達物質です。お母さんが赤ちゃんに母乳を与えている時にも出ますし、絵画や音楽に感動した時にも分泌されます。また、人に親切にした時とか、自分の信じる神に祈りを捧げる時にも分泌される。そしてそれが、さまざまな疾患を緩和したり改善する役割を



クリニックでは、診察のみならず、鍼灸など、自ら、東洋医学に基づく施術も行う。

「おいしいと感じる時に分泌される
脳内ホルモンが、人を健康にする」



日本健康創造研究会会長 米国ウイスコンシン医科大学教授
統合医療 クリニック徳 院長

高橋 徳

たかはし とく：1950年、岐阜県生まれ。1977年、兵庫医科大学病院に、消化器外科の医師として勤務。1988年、ミシガン大学助手。その後、デューク大学教授を経て、2008年、ウイスコンシン医科大学教授。2013年、帰国し、岐阜に「高橋医院」開院。2016年、名古屋に「統合医療 クリニック徳」開院。

果たすことが、最近の研究で分かっています。東洋医学の効き目には、このオキシトシンが深く関わっているだろうというのが、アメリカでの研究で私が得た一番の知見です。そういう意味では、「おいしいと感じること」が、栄養素以上に大事なのではないかなと思うんです。

岸／ところが、その「おいしい」というのが意外にむずかしい。単に食材や調理法だけで決まるわけではなく、周囲の環境や、その時の条件によっても感覚が変わってくる。

高橋／早い話が、腹が減っていれば、何でもおいしい。

岸／ええ。それに、その人が小さい頃から何を食べてきたか、そんな食経験によるところも大きい。日本人がおいしいと思う納豆が食べられない外国人は多いですし。

八木／それは、主食の米でさえ感じます。消費者に届ける私たちの営業エリアは決して広くないのですが、例えば、名古屋市と稲沢市でも米の好みはちがう。要するに、ふだんその地で流通している以外の品種を持って行くと「おいしくない」と言われるんです。そういう意味ではやはり、「慣れ」ということも多分にあると思います。

「寿司の誕生」が示す この地方の有利さと イノベーションへの意欲

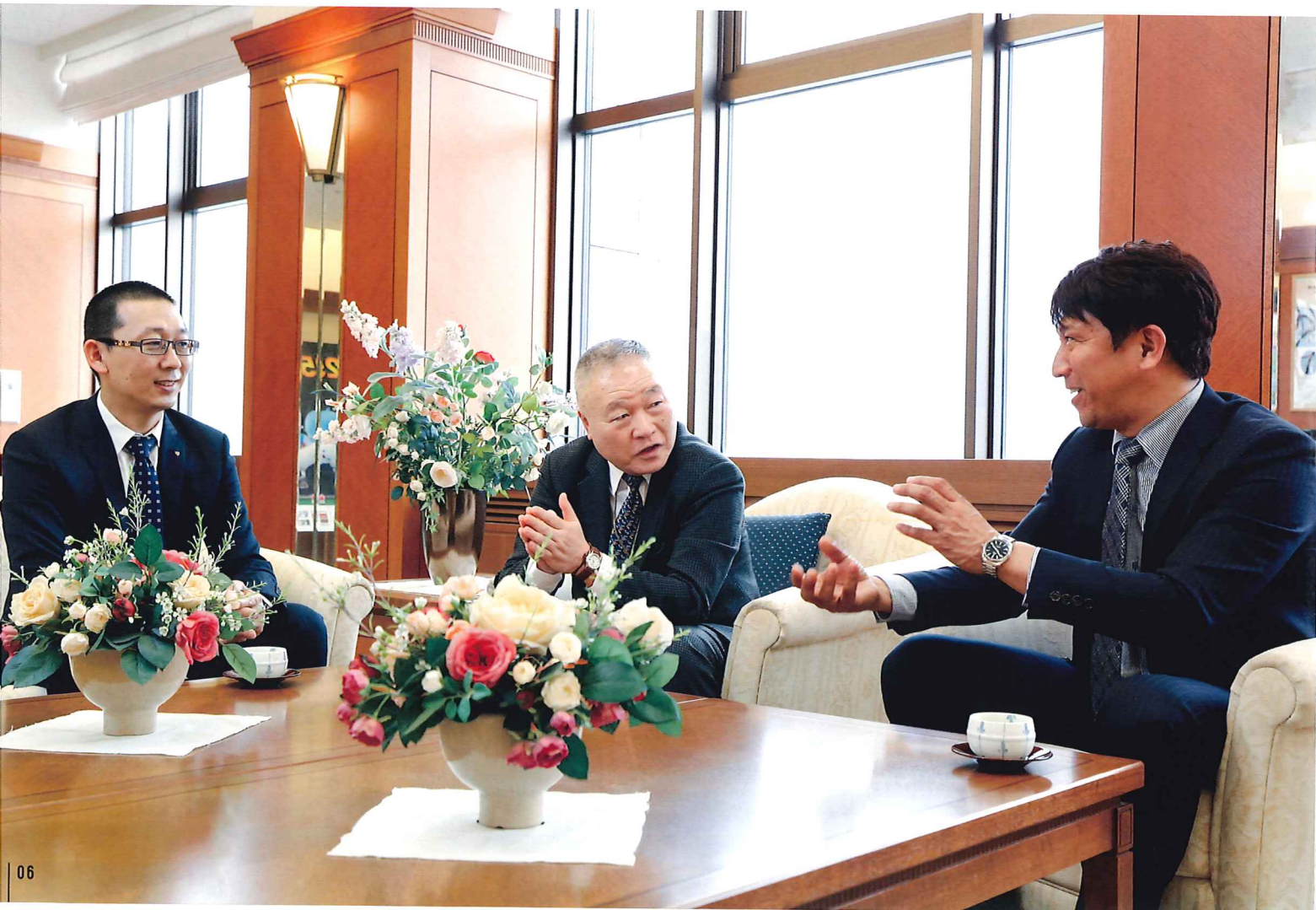
八木／名古屋市と稲沢市でも米の好みがちがうという話をしましたが、今の農業経営者が抱える一番の問題点は、そうした消費者の好みすら分かっていないということです。農家にとってのエンドユーザーがJAや卸業者になっていて、本来の消費者が見えない。そこに、補助金行政などとも言われる国の農業政策が重なって、消費者に合わせて品質を高めていこうという意欲に欠けるんです。特にこの地方には独得の問題もある。たとえば愛知県の農業は、相対的には恵まれていて、少なくとも専業農家の離農は他の地域より少ないんです。それは、名古屋という大消費地が近くにあるから。他地域のようにブランド戦略に血道を上げて全国に売り込まなくても、外

食産業などに売れていく。作ってればそこそこ食べていけるから努力しない。

岸／当社の来歴とも関係することですが、この地方が条件的に恵まれているというのは、江戸時代も同じです。例えば、当時、関東地方は水質の問題があつて、おいしいお酒が造れなかった。だから、江戸で消費される酒は、もっぱら西国から運ばれていました。灘酒が有名ですが、この地方も、酒造りに適した気候に恵まれて、大量に作られました。もちろん、大消費地名古屋があつてのことですが、江戸にもさかんに移出されています。酒は重いですから、当然、水運に頼るわけですが、東海沿岸のふたつの難所、熊野灘、遠州灘のうち、ひとつが避けられる分、関西よりこの地方の方が有利でした。当社ももともとは、そんな酒蔵のひとつでした。でも、当社はそれに甘んじることなく、新たな商品を作り出しました。それが、酒造の過程で出る酒粕を原

料とした粕酢です。安くて旨みの強い粕酢が、江戸湾で獲れた魚と組み合わせられ、いわゆる江戸前寿司が流行する。当時、寿司職人たちは、それまで主流だった「熟れ寿司」に対し、酢飯で握った寿司を「早寿司」と呼び、振り分け屋台を担いで売り歩いた。早寿司……まさに、当時のファストフードだったわけです。それが庶民の間で大ヒットし、今や世界に知られた寿司文化の直接の由来となります。そういう意味では、当社の誕生は、有利な条件を利用した一大イノベーションの結果だったと言えると思います。

八木／ええ、いびつな農政に頼ったり嘆いたりしているのではなく、私たち自身が、そんなイノベーションへの意欲を持ってやっていくしかないと思っています。





受託した農地は、最新の技術や生産管理システムで耕作。その仕事ぶりに、地域の信頼も厚い。

東海地方には、
未来の「食」のモデルとなる
可能性がある

八木／より良い農業や食環境をつくるためには、やはり、社会の認識が変わっていかねばならない。そういう意味では、「食育」ということが重要だと思います。さっき、食べ慣れたものが一番おいしいという話が出ましたが、ヨーロッパの国々では、「自国の高い農産物を買う事で農家の皆さんの生活が支えられる。そのおかげで自分たちの生活が成り立つ」という教育がされています。地域の農業や食産業を守ろうという意識の醸成にまで踏み込んでいるんです。日本では「地産地消」が強調される割には、そこまで生産者と消費者が結びついていないと感じます。もっと子どもたちが、地域の農業に触れられるような食育ができたらいいなと。そのために、われわれも働きかけていきたいと思っています。

高橋／子どもと食の関連でいえば、ミネラル不足という問題も気になります。精神的に不安定な子どもが増えたのも、それがひとつの要因だとも言われます。いくら便利でも、ファストフードやコンビニの食事ばかりだと、どうしてもミネラルが足りなくなる。そういう意味でも、地域に伝統的に伝わる食材や料理は、大事にしたいと思っています。

八木／あと、食に関しては、農薬など環境の問題も関わってくる。今、オリンピックを前に、GAP(ギャップ)※ 認証を取得

「恵まれた条件を活用して、
未来の農業の形を示していきたい」



農業生産法人 有限会社鍋八農産 代表取締役

八木 輝治

やぎ きはる：1971年、愛知県生まれ。1991年、家業であった農業を継ぎ、有限会社「鍋八農産」設立。農地受託耕作を中心に事業を拡大し、その間、地域のさまざまな農業団体役員を歴任。2016年、第45回日本農業賞「個別経営の部」大賞・第55回農林水産祭天皇杯受賞。

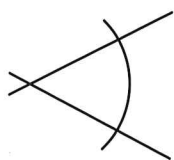
しようという動きがさかんですが、これもブームのようになっているのに違和感があります。世界基準に沿った農業生産をするのはいいとしても、農業をめぐる環境問題には、息の長い取り組みが必要です。GAPを取ったからそれでいいというものではなくて、ひとつひとつ、現実即して解決していかなければならないと感じます。

岸／当社が掲げる経営理念に、「買う身になって まごころこめて よい品を」「脚下照顧に基づく現状否認の実行」という言葉があります。先刻も話題に上ったように、食をめぐる産業についても、この地方には有利な条件があります。だから

こそ、それに甘んずることなく、ひとつひとつの課題に、イノベーションの意識を持って取り組んでいくことが必要でしょう。もちろん当社も今後も、この理念を掲げ、消費者の立場に立った経営を目指してまいります。

八木／私も、この地から、新しい日本の農業モデルをつくるつもりで、頑張っていきたいと思っています。

※Good Agricultural Practices: 農業生産工程管理 国連の関連機関が定めた農業生産の規範に基づき、農林水産省が定めた規範。また、その認証制度。



Professional Eye



featuring

鵜匠 稲山 琴美

「鵜飼い」が、古式漁法の伝統を汲むものだというのは誰もが知っているだろう。インド以東のアジアで始まり普及した漁法といわれるが、その起源は明確ではない。面白いのは、16～17世紀、ヨーロッパの貴族の間に「狩り」の一種として流行したということ。また、南米の遺跡のレリーフにも、鵜飼いを思わせる図柄が残っているという。そういう意味では、アジアの範囲も超えているわけだが、いずれにせよそのほとんどは廃れ、「鵜飼い」が現存するのは中国と日本だけだ。中国の方は、未だ現役の漁として行われているが、日本では、ほぼすべてが「観光鵜飼い」である。風折烏帽子に漁服、胸

いなやま ことみ

愛知県小牧市生まれ。高校卒業後、動物が好きだったこともあり、ペット関係の専門学校へ。その後は虫類・鳥類などの「エキゾチック・アニマル」を扱うペットショップに勤務。留学を機に店を辞し、帰国後、犬山市の募集に応じ、「木曽川うかい」で初の女性鵜匠となる。一昨年、第一子を出産し、現在は日本で唯一のママさん鵜匠として活躍。

あて、腰蓑の鵜匠が篝火を焚いた小舟に乗り、十数本の手縄をさばいて鵜を操る図は、実際に見たことはなくとも、日本人ならすぐに頭に浮かべることのできる夏の風物詩だろう。

この地方では、もちろん、岐阜市と関市の皇室の御料場で行われる「ぎふ長良川鵜飼」が有名だが、それ以外にも愛知県犬山市の木曽川で鵜飼いが行われている。その起源も古く、702年のこの地方の戸籍に職業として「鵜養部」の記載が見られる。さらに17世紀、犬山城三代城主成瀬正親が御料鵜飼いを催し、鵜匠を保護したという記録もある。現在のものの直接的な由来は、明治中頃、

自然と共生してきた漁と 食の文化。継承する意味と 面白さがわかってきた。



鵜飼いの復興を目指し、長良川から鵜匠を招いて観光鵜飼いとして定着したものだが、伝統にルーツを置く^{みやび}雅な世界であることに変わらない。そんな「木曽川うかい」で、初めての女性鵜匠となったのが稲山琴美さんだ。

ダンサー？ ペットショップ？
突然、目の前に現れた
“鵜匠”という仕事

「子供の頃は、ダンサーになりたかったんです」木曽川近くの山腹にある鵜の飼育小屋を兼ねた鵜匠の詰め所で、稲山さんはそんな風に語り始めた。「例えばディズニーランドのようなところで、お客さんを前に踊れたらいいなって」



上：「木曽川うかい」の特徴はなんと言っても鵜舟とやかた舟の距離が近いということ。篝火の熱さ、鵜の水しぶきを肌で感じることができる。

下：お昼の鵜飼いでは雄大な国定公園を眺めながらランチも楽しめる。夜だと見えにくい鵜が魚を呑む姿がよく見えるのも良さの一つ。

子供の頃からダンスを習っていて、それが好きだった。一方で、動物好きでもあった。だから、高校卒業後はペット関連の専門学校に通い、その流れでペットショップの店員になった。犬猫以外の変わったペットを扱うその店で働くのは楽しかったという。

「ただ、一度留学もしてみたくなくて……」数年後、職を辞し、オーストラリアに留学。帰国後、ペットショップへの復職の道もあったが、失業保険の給付を受けながらゆっくり仕事を探そうとハローワークへ。そこで、犬山市が出していた「鵜匠」の求人を見た。「鵜飼いは何となく知ってましたから、それをやる人なんだろうなぐらいの知識で応募したんです」



飼い慣らすのではない。

可愛がるのでもない。

鵜は、仕事のパートナー

「市としては、特に女性を採ろうというつもりはなかったようです。私が応募してきたんで、むしろ驚いたんじゃないでしょうか」

当初、「体力のいる仕事だから」と首を傾げていた先輩鵜匠たちも、話題づくりとしては面白いだろうと納得し、採用が決まった。「他の鵜飼いの開催地にすでに女性鵜匠もいたので、日本初というわけではなかったんですが、少なくとも東海地方では初めて。休業中から、新聞やテレビの取材をたくさん受けました」

実際、鵜匠として舟に乗るようになると、稲山さん目当てのファンも数多くやってきた。対岸で、望遠レンズを構える人もいたという。

とはいえ、そんな表の姿だけが鵜匠のすべてではない。川に出ていない時は、鵜の飼育が大きな仕事となる。ただ、鵜飼いの場合、鵜を調教するというのとは少し違うという。

「鵜に鮎を捕らせるのを、犬をしつけて投げた棒を持ってこさせるのと同じだと思っている人も多いんですが、それは誤解です」

鵜は、ペリカンに近い鳥。捕食するときは、魚を噛まずに丸飲みし、いったん首にある袋に貯める。鵜飼いの鵜は、その袋の下あたりを縛られ、大きな魚が胃に下りないようにしてある。鵜匠は、鮎を捕った鵜を舟の上に引き上げ、その袋の中の鮎を吐き出させる。あくまで、鵜の生態を利用した漁である。

「ですから、手縄たなわを着けたままでも水に潜れる訓練はしますが、一羽ずつに名前をつけて可愛がるようなことはしません」

鵜は、あくまで仕事上のパートナー。その割り切りが、鵜匠が匠うえんであることの所以だろう。

ショーとしての鵜飼ひ。

観光事業としての鵜飼ひ。

そして、文化の伝承としての鵜飼ひ

現在、木曽川うかひの鵜匠は、稲山さん含め4名。位置づけとしては、他の男性3人は犬山市の職員だし、稲山さんは観光協会の職員だ。これは、名目上という話ではない。鵜匠としての仕事がおちついていいる時は観光協会の事務も執るし、観光イベントの裏方としても働く。

鵜飼ひそのものも、観光事業の一環としての、いわばショーである。その点では、木曽川うかひは特にその傾向が強い。他の開催地が夜だけなのに対し、木曽川の場合は「昼の鵜飼ひ」もあるのだ。観光都市・犬山は、昼間型の観光施設がほとんど。そんな昼間の観光客に対応するため、まだ日の高い午後にも行われる。

「ただ、鵜飼ひが、篝火かがりびを焚いた舟で、夜行われるのは、演出のためだけではないんです」

あの篝火かがりびは、実は漁火いさ。火の灯りで鵜や舟の影が川底に映り、それを見た魚が明るい方、篝火かがりびの下へと逃げてくる。鵜もまた、照ら

されて光る鮎の鱗^{うろこ}に反応して水に潜る。

そんな漁としての醍醐味が、昼の鵜飼いでは半減する。「手縄^{たなわ}をさばきながら、潜った鵜を見極め引き上げる鵜匠としての見せ場も少ないんです」

子供が小さい稲山さんは、現在、そんな昼の鵜飼いが中心。本来は、夜の鵜飼いでもっと腕を振りたいところだ。

「でも、鵜飼いという文化を、子どもたちを含む、より広い層の皆さんに知ってもらうことは、大事だと思っています。その点では、昼の鵜飼いも意味があるかなと」

木曽川うかいでは、観光客が乗船する前に、鵜匠自身が鵜飼いの見どころを解説する時間がある。

「そこで鵜を見る子供たちの目の輝きに、こちらもしっかり説明しようと思うし、かっこいいところを見せようという気にもなります」

一方、最近では、鵜飼いそのものに、眉をひそめる人もいる。「鵜がかわいそうとか、動物虐待だという声もあります。そこは、長い間、人間が営んできた漁と食の文化として理解してもらいたい」

鵜飼いに使うウミウの自然界での寿命は4～5年程度。でも、鵜飼いの鵜は、20年近く生きるという。

「そういう意味では、人間が鵜を大切に扱い、共生してきた文化でもあるんです」

久しぶりに読み返した 鵜飼いの本が面白くなっていた。 もう、辞められないなと

では、実生活で子供を産み、子育て真っ最中の稲山さんに、鵜匠としての心境の変化はあったのか? 「最近、そういうことをよく聞かれるのですが、さっきも『仕事のパートナー』とお話したように、鵜匠と鵜の関係は、親子とは全く違います。親になったからといって、鵜への接し方が変わったということはない。ただ、産休や育休で、自分の今を再確認できたということはありません」

産休に入った稲山さんは、鵜匠になった当時勉強した、鵜飼いの歴史や鵜の生態について書かれた本を改めて読んだのだという。「以前読んだ時とは、面白さがまるで違った。それで、自分が鵜匠として成長しているんだと実感できました。そういう意味では、もう辞められなくなっているなと。もともと動物好きだし、ダンサーとしてお客さんにパフォーマンスを見てもらいたいと思っていたわけですから、けっこう向いている仕事なのかも」

では、鵜の方は、「鵜飼い」をどうとらえているのだろう。最後にそんな質問をした。

「それは、よくわかりません。ただ、夜の鵜飼いがひとわり終わり、鮎も十分捕った頃になると、『もう、このくらいいいだろう』という感じで、自分たちの方から舟に上がりたそうにしてくる。そんな様子に、彼らもこれを仕事と思っているのかなと」

鵜もまた、「鵜飼いの鵜」として「プロの道」を生きているということかもしれない。



上:鵜は、鮎を文字どおり「鵜呑み」するので鮮度やうま味が保たれる。それが、古くから高級魚として珍重されてきた理由だ。

中:「木曽川うかい」は、毎年6月1日から10月中旬まで開催される。昼、夜とも遊覧船の乗船には予約が必要。

下:鵜飼いシーズン以外の鵜匠の仕事は、鵜の飼育や訓練、そして道具づくり・修理に費やされる。



愛知大学による国際交流活動

語学力向上、異文化理解 のためのオープンな場

愛知大学グローバルラウンジ

実践的なコミュニケーション力を培う環境



外国語のフリートークが日常的に飛び交う場で、 日本人学生・留学生の異文化理解と コミュニケーション能力の向上を。

建学の精神を活かすため 昨年4月、開設

2017年4月に名古屋キャンパス厚生棟5階に愛知大学グローバルラウンジが開設されました。愛知大学の建学の精神である「国際的教養と視野をもった人材の育成」をめざし、学生の外国語能力向上、異文化交流・理解促進、外国語による発信力養成を目的とした施設です。

「キャンパス内につねに外国語で会話するオープンな空間をつくる。ひとこと言えば、それが目的です」

このグローバルラウンジを率い運営

する国際コミュニケーション学部長・塚本倫久教授は言います。

ネイティブ教員が常駐 気軽に話せる雰囲気

「外国語能力の向上には、やはり、実際にその言語を使って会話するのがいちばん。ここにはつねに英語、中国語、フランス語を話す外国人のネイティブ教員がいて、気軽に外国語で会話を交わすことができるようにしています」

ラウンジに入っすぐの“コミュニケーションエリア”には、可動式のテーブルや椅子が配置され、ネイティブの教員たちと学生のフリートークが、日々くり広げられ

ています。また、外国語の映画DVDや雑誌、書籍もそろい、自由に鑑賞・閲覧することができます。さらに、留学をめざす学生が情報を収集するための資料やPCなどを常備した“情報エリア”、個人で語学学習するための“スタディエリア”などもつくられています。

「ただ、学生の語学力は人それぞれ。さまざまなレベルに対応するため、より高度な講座も開設しています」

小規模のセミナーやクラスに活用できる“レクチャーエリア”、中規模のクラスに対応する“ワークショップルーム”も設け、中級やビジネス英語の講座(有料)が行われています。



国際コミュニケーション学部
学部長

塚本 倫久

1957年静岡県生まれ。1988年愛知大学教養部講師として着任、1998年国際コミュニケーション学部設置に伴い移籍、2014年から国際コミュニケーション学部長。専攻は英語学。

留学生の交流の場 日本理解の場としても

「もうひとつ、重要な課題として、留学生のための居場所づくりということもありました」

愛知大学で学ぶ各国からの留学生が集い交流できる場、そこに日本人学生が加わり、異文化理解の場をつくらうということも大きな目的です。

「異文化を理解するには、一方で自分の国の文化を知るということも重要です。留学生に日本のことを聞かれた時に、ちゃんと外国語で説明できるかどうか。相互理解にはそれが欠かせません」

そのため、学生のボランティアで組織するサポート隊が、日本文化を紹介するイベントなども随時開催しています。

さらに、いつでも出入り自由な“グローバルカフェ”も併設。ここには畳敷きのコーナーもあり、さらに深い日本理

解の場として活用していく予定です。

よりオープンに、 かつ実効性ある場として

「初年度の利用状況を見ると、約半分は国際コミュニケーション学部の学生ですが、残りを現代中国学部や経営学部などの学生が占めています」

ビジネスをはじめさまざまな側面で国際化が進む日本。どんな分野に進むにせよ、語学力や異文化理解が欠かせません。毎日通うキャンパスにそれが身につく環境をつくらうというもくろみは、順調に発進したと言っていいでしょう。「初年度は、誰もが気軽に利用できるよう敷居を低くしていましたが、本年度からは、外国語オンリーの時間帯を設けるなど、より実効性ある取り組みを考えています」

外国語によるコミュニケーション能力を高めるという第一の目的を、より深

化させていこうという計画です。

「また、豊橋キャンパスの学生にも、ぜひ利用してほしいと思っています」

「豊橋キャンパスにも、名古屋から通学する学生は少なくありません。そうした学生にも、気軽に立ち寄ってもらえるような場所にしたいと思っています」

「留学生の中には、アニメなど日本のポップカルチャーに惹かれて来たという学生も多い。共通の趣味や関心を持つ日本人学生との自発的な交流も、ここを舞台に進んでいけばいいと考えています」



グローバルカフェは日本文化理解のスペースとして留学生との交流の場などに使われています。

PROFESSORS LABO

愛知大学 教授

公認心理師をめざす
人材育成に力を注ぎたい

鎌倉 利光
TOSHIMITSU KAMAKURA

不登校・いじめ、高齢者の生きがい……
さまざまな年齢で「心理の問題」が渦巻く現代。
それに応えるプロフェッショナルを育てたい。

パーソナリティの研究からより実践的な場へ

人間の資質や性格というのは遺伝的に決まるものなのか、あるいは育った環境によるものなのか？それは、心理学や教育学にとって、つねに議論されてきた課題なのですが、どちらか一方に決定的要因があるのではなく、その両方が相互に作用影響し、一個の人間のパーソナリティが形成されるというのが、とりあえずの答えでしょう。

私の研究は、そんなパーソナリティの形成を発達心理学の視点から見ることからスタートしました。具体的には、双子を研究対象にし、その生育過程において、どのような一致と相違が現れるのかを見ていくというのがテーマです。もちろんその過程で、心理の発達をより正確に捉えるための質問紙法や面談などの手法を学びました。

研究者としては、次第に、その手法を実際の社会に活かすという方向にテーマが展開していきました。それはやはり、現実の社会に、人の心理を巡るさまざまな問題があったからこそです。学齢期における不登校やいじめの問題、もちろん現役世代にもストレスから来る心理的な不健全は多い。また、最近では、高齢者の心理の問題も、さまざまに出てきます。教育や医療とは別に、心理学的視点からのアプローチが必要だと感じ、それに応えるため、私自身、臨床心理士の資格を取り、豊橋市教育委員会の心理カウンセラーなども務めています。

大学教育の場でも、そうした発達心理・教育心理への理解を広めるとともに、実際に現場で働ける人材の育成を、つねに念頭に置いています。

心理分野で初めての国家資格 「公認心理師」取得をめざす学生を

そうした点では、現在、わが国では大きな社会的改革が進行中です。心理・医療などのさまざまな団体からの要請や、職能をめぐる国会での議論を経て、「公認心理師法」が2015年に成立、昨年の施行を受け、いよいよ今年中に第一回の試験が実施される予定です。これまでの民間資格である臨床心理士などに加え、心理分野で初めての国家資格が生まれるわけです。試験などの要項は、まだ細部のつめの段階ですが、受験には「大学院での必要単位の履修」あるいは「一定の期間の実務経験」が必要とされます。ですから、大学卒業だけでなく取得できる資格ではありませんが、今後は、この公認心理師をめざす人材の育成にも、いよいよ力を注いでいかなければならないと思っています。

もちろん、私自身も取得できればと思いますし、社会に貢献していきたいと考えています。



Profile.

東京都出身。東京学芸大学大学院教育学研究科修士、慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了(教育学)。2006年愛知大学赴任。文学部教授。臨床心理士。豊橋市民病院治験委員会委員、豊橋市教育委員会心理カウンセラーなども務める。



鎌倉ゼミナールでは、ゼミナールの合宿を行う。日頃からアットホームな雰囲気だが、ここではさらに、ざっくばらんに親睦を深める。もちろん、卒論にむけての学習会なども行う。

愛大スピリット

AIDAI SPIRITS

大学に入ってから才能が開花。
念願のプロゴルファーめざし、
苦しい練習も明るくこなす。
夢は、国際舞台へと広がる。

いよいよ始まる
プロテスト。
本来の力を出せれば、
いけると思う。
早くプロとして
活躍したい。

愛知大学 経営学部4年

芦沢 衣里さん

ERI ASHIZAWA

―去年の中部学生ゴルフ選手権、女子は愛大ゴルフ部が目立った大会だったようですね。

芦沢 ええ、1日目は上位を独占して、なんと2日目の最終組4人が、全員愛大生という。ただ、その2日目はスコアを落として誰も優勝にはとどきませんでした。私自身は4位スタートだったんですが、一度は首位に立ったんです。でも後半、ボギーをたたいて、結局2位でした。

―とはいえ、年間の総合ポイントでも芦沢さんは2位。1位の方がQT(プロツアーの予選会)出場で学生の試合の出場資格がなくなって、実質的には今、中部の学生トップということですよ。

芦沢 はい。去年は、全国規模の朝日杯で3位とか、多くの大会で上位に食い込めたので。自分では、安定して力を出せるようになってきた結果と思っています。

―大学生ゴルファーとしてのデビューが派手だったと聞いています。1年生の時に、いきなり大きな大会で優勝して注目を集めたとか。

芦沢 ええ。CBC杯と中部学生選手権で優勝できて、自分でも驚きました。ジュニア時代は、あまりバツとしませんでしたから。大学という環境が、自分に合っていたのかなと思います。

―ジュニアからということは、ご両親が趣味で、その影響を受けた？

芦沢 いえ、たまたま近所にゴルフの練習場があつて、母が「やってみたら」って。塾や習い事に行くのと同じように、学校から帰ると通っていました。ちょうど、宮里藍さんの活躍もあって、それにもあこがれて。

―去年は、日本代表として、ユニバーシアードにも出場されたとか。

芦沢 はい、代表3人のひとりに選んでいただけて。チームで4位、個人で6位タイは果たせたんですが、やはり、外国選手のパワーに圧倒されました。

―バットがお得意ということですから、なおさらその感は強かった？

芦沢 ええ。わたしの課題は飛距離にあります。飛距離を伸ばすことができれば今より楽にプレーすることができると思います。そのためにドライバーの飛距離をもう15ヤード伸ばしたいです。

―そのためには、体力づくりが必要ですよ。筋トレとかも？

芦沢 はい、下半身強化を重点的に。幸い、体を動かすことは何でも好きなので、筋トレも苦痛ではないんです。

―今年は、プロテストに挑戦されるとか？

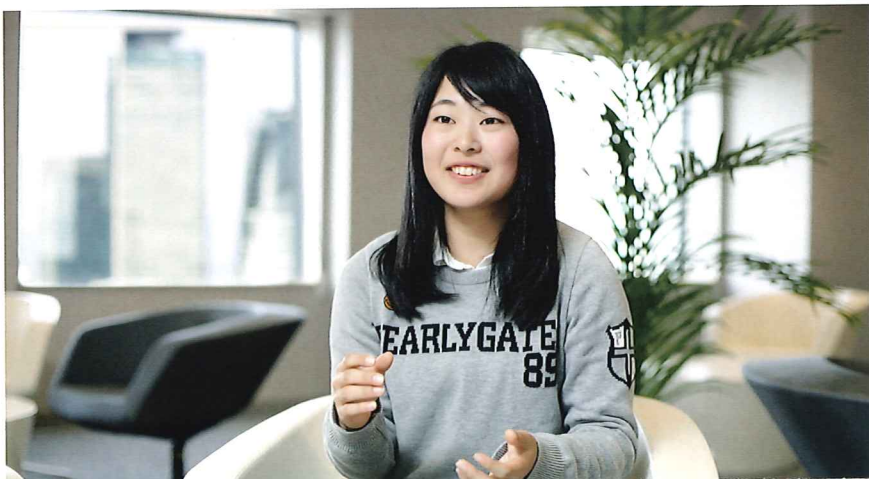
芦沢 4月から一次予選が始まりますから、今は、そこに照準を合わせています。女子の場合、高卒でプロになる人も多いので、そういう意味では、私はすでに出遅れている。何とか今年合格をめざします。

―ユニバーシアードでの経験で、その先には、国際舞台での活躍という夢もあるのでは？東京オリンピックもありますし。

芦沢 2年後は難しいですが、いずれまた日本代表でプレーしたい。そのためにも、早くプロとして活躍したいと思っているんです。



この写真は愛知県女子アマチュアゴルフ選手権の写真です。国体の選考を兼ねた試合で、3位以内に入れば国体選手に選ばれましたが、5位タイという悔しい結果となりました。来年は優勝できるように頑張りたいです。



2017年度の主な事業実績

1 奨学金事業

奨学金給付実績

一般給付奨学金	47名
法科大学院特別給付金	3名
知を愛する奨学金	4名
後援会学業奨励金	23名
後援会私費外国人留学生給付奨学金	11名

奨学金授与式

2017年12月9日愛知大学名古屋キャンパスで実施

2 教育・学術研究活動助成事業

知のミーティング開催実績

- ・愛知大学言語学談話会主催 公開講座「言語」2017
愛知大学豊橋・車道キャンパスで一般市民向け講義を各2回実施
- ・愛知大学言語学談話会主催 公開講座「新約聖書の福音書を朗読する集い」
愛知大学豊橋キャンパスで月2回開催
- ・愛知大学国際ビジネスセンター主催「第13回ビジネスセミナー」
愛知大学名古屋キャンパスで開催
- ・日本女性技術者フォーラム主催「あなたの夢が世界を変える、女性技術者科学者国際会議」横濱市で開催
- ・山形県東置賜郡川西町と愛知大学共催「本間喜一氏を顕彰する公開講演会」
川西町交流館「あいばる」で開催
- ・愛知大学国際中国研究センター（ICCS）主催の第2回愛知大学ICCS「新世代国際学術シンポジウム」愛知大学名古屋キャンパスで開催
- ・愛知大学法学部、法科大学院共催のマーク・レヴィン先生公開講演会「日本におけるタバコ製造物責任訴訟について」「アメリカ合衆国における婚姻平等実現への歴史—日本とアメリカ合衆国を比較して—」と題して愛知大学で講演
- ・愛知大学と江蘇国際交流文化センター、南京大学共催「江蘇杯中国語スピーチコンテスト」愛知大学名古屋キャンパスで開催
- ・地域研究機構連携シンポジウム「大学と地域人材育成」
愛知大学豊橋キャンパスで開催
- ・愛知大学東濃支部主催「落語で世情を読む」落語家3人を招き、多治見市で開催

キャリア教育支援事業実績

- ・学生によるOB、OG探訪記作成
- ・産官学連携キャリア育成プログラム
- ・企業セミナー 名古屋国際会議場217社参加
- ・東京で学生対象に就活対策ゼミナール合宿

奨励賞授与式

2018年3月3日 愛知大学車道キャンパスで開催

その他、海外研究実習助成、教育活動助成、課外活動特別奨励、緑の協力隊助成などの事業を実施

入会募集

本財団の趣旨にご理解・ご賛同いただける会員を広く募集します。

特典① 当財団が支援する
企業セミナー等へ優先的にご案内

特典② 会員交流会や
各種イベントへのご優待

特典③ 活動をまとめた会報の送付

入会方法

① 財団事務局までご連絡ください。入会申込書をお送りさせていただきます。HPからもお申し込みいただけます。
(<http://www.aichi-u.ac.jp/aers>)

② 年会費 [法人] 1口 10,000円
[個人] 1口 3,000円

※何口でもお申し込みいただけます。
※お振込の前に必ず入会申込書をお送りください。

③ 振込先(下記のいずれかの方法でお振り込みください)
口座名:公益財団法人愛知大学教育研究支援財団

銀行名	三菱東京UFJ銀行	ゆうちょ銀行
支店名	豊橋支店	089店(ゼロハチキョ)
口座番号	普通 0239522	当座 0023543

次年度から、ご希望に応じて会員の法人名又は氏名を掲載させて頂く予定です。



AERS

知で活きる人へ。

公益財団法人愛知大学
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION

お問い合わせ先

公益財団法人愛知大学教育研究支援財団

〒461-8641 名古屋市東区筒井2-10-31

TEL 052-937-8156 FAX 052-937-8157

E-mail kouyu@aichi-u.ac.jp

公益財団法人 愛知大学教育研究支援財団のホームページにて
各種詳細情報を公開しております。

www.aichi-u.ac.jp/aers/